

小学校6年生から高校1年生の女の子と保護者の方

9価の「HPVワクチン」を 公費で接種できるようになりました

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口の近い部分にできるがんです。

日本では毎年、約 1.1 万人の女性が子宮頸がんにかかり、約 2,900 人の女性が亡くなっています。また、若い年齢層で発症する割合が比較的高く、20 歳代から増え始め、30 歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約 1,000 人います。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げない HPV 感染もあります。子宮頸がんを早期に発見し治療するために、20 歳になったら、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

「HPV ワクチン」とは？

HPV ワクチンは子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。9 価の他に 2 種類(2 価、4 価のワクチン)があります。一定の間隔をあけて2~3回接種します。どのワクチンを接種するかは医師とご相談ください。

9価の HPV ワクチンとは？

HPV にはいくつかの種類(型)があり、9 価のワクチンは、このうち 9 種類の HPV の感染を防ぐワクチンです。その中でも子宮頸がんの原因の 80~90%を占める、7 種類の HPV の感染を予防することができます。

ワクチン接種後の副反応は？

ワクチン接種後には、接種部位の疼痛・腫れ・赤み、頭痛など副反応が起こることがあります。接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、ワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

【平成9年度生まれ~平成18年度生まれ】までの女性へ

過去に HPV ワクチンの接種を合計3回受けていない方は、公費で接種することができます。接種可能な時期は令和7年(2025)3月31日(3回の接種が完了)までとなりますので、希望される方はなるべく早めに接種しましょう。

【平成9年4月2日生まれ~平成17年4月1日生まれ】までの女性で自費でHPVワクチンを接種された女性へ

次の2つを満たす方は、接種費用の助成を受けることができます。

- ・令和4年4月1日時点で南伊豆町に住民登録があること。
- ・17歳となる属する年度の初日から令和4年3月31日までに HPV ワクチンの任意接種を受け、自費負担したこと。

◆問い合わせ先 南伊豆町健康増進課 TEL:0558-62-6255◆